



令和6年10月4日(金)発行 No.3

秋田県立ゆい支援学校 PTA 事務局

全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会 全国研究協議大会東北大会

8月24日、鶴岡市で開催された山形大会に金子 PTA 会長が参加されました。全国から集まった特別支援学校の取り組みや、講演会などの感想など、実り多い会について次のようにまとめていただきました。

8月24日(土)、山形県鶴岡市(荘銀タクト鶴岡)で開催された、全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会 令和6年度 第40回全国研究協議大会 東北大会(山形大会)に参加してまいりました。大会テーマは、「多様性を認め合い共に育む心のネットワーク～すべては子供たちの笑顔のために～」というものでした。



基調講演では、「知的障がい、発達障がいのある子どもへの親のかかわり方」と題して、山形県立こころの医療センター院長の神田秀人氏が講演しました。アタッチメント(愛着)について、子どもが安定型の愛着となる為には、親の愛着が安定していることが重要である一方、知的障害の程度、重症度によって、必要な支援が異なってくる事などが、詳しく説明されました。特に、印象深かったのは、終盤での「こまった行動への万能的な対処法」でした。「何々してはダメ」を言い続けると、どうしても否定的なニュアンスが伝わってしまうことが多く、「なんべん言ったら分かるの」「馬鹿じゃないの」など関わる大人の感情も陰性のものにエスカレートしやすいため、代わりに「何々します」と本人に取って欲しい行動を肯定的な言葉にしながら、その行動を大人が「黒子のように」誘導し、できたら、「何々できました」と言葉掛けをしながら、褒め、自己肯定感を高める関わりをするべきだと、分かり易く説明されました。ゆい支援学校の多くの保護者の皆さんは、既に実践なさっていることかもしれませんが、改めて、普段からの関わり方の大切さを実感しました。

分科会では、【第4分科会】「楽しくつながる～特色ある PTA 活動②～」に参加しました。発表は2校あり、第一は、中国四国ブロックから、島根県立岩見養護学校「みんながつながる岩養の PTA 活動」でした。同校では、生徒数、会員数の減少も課題としてあり、コロナ禍を経て、従来の専門部に分かれての活動から、行事ごと(体育祭、PTAふれあい活動、岩見もりもり祭)に担当を決め、企画・準備・運営、PTA便りの運営を行う形式に改めたそうです。特色として、卒業生保護者会『カナウハズ』が組織されており、会員数の減少を補い、バックアップしており、校歌の他に、PTA有志が作詞作曲したオリジナルソング「♪出会いそして未来へ♪」があり児童生徒、保護者、教職員によって歌い継がれ、歌詞(かなうはずの みらいへ こぎだそう)の入ったポロシャツも作成し、PTA活動で着用し、盛り上げているとのことでした。こうした活動全体を聞きながら感じたのは、一養護学校の PTA の取組を超えて、人口減少に直面する地域の地域おこし、児童生徒のみならず地域の人びとのつながりの強化の一翼を、PTA が担うほどに活躍している、という事でした。

第二の発表は、九州ブロックから、鹿児島県立鹿児島南特別支援学校「鹿児島県南特別支援学校 PTC A の取り組み」でした。同校は、前身の養護学校の移転、高等部の設置、他校との併合に伴い新たに開校したとのことで、併合に向け準備を重ねる中で新たな PTA のあり方を模索し、従来の P と T に、C (地域) を加えた PTC A とし、会則・会計のあり方も一から刷新したということです。会員・会費を、保護者・教職員の正会員は年会費 3,000 円、その他に年会費 0 円の特別会員(転校、転任者・近隣大学生・ボランティア・非営利団体など)を設け、この他に、学校・保護者関連の会社、福祉事業者、商店などを賛助会員として年会費 12,000 円としたそうです。こうして会員種別、収入を増やした一方で、正会員の加入は、年度毎の任意としたそうです。また活動は、全体活動と任意活動にわけ、正会員なら誰でも実行委員会を作り、自由に事業、任意活動を行えるようにし、パラスポーツを体験する活動や、マルシェの開催、それに出品する手芸品を作るサークル、障害者年金勉強会など、多彩な活動も生まれたとのことでした。PTA 入会が任意なのか義務なのかといった議論はよく耳にする事柄ですが、抜本的に PTA を見直した上で取り組まれた成功例の一つとして、非常に示唆に富む内容でありました(裏資料参照)。

以上、全体会の基調講演や、分科会の二校の取り組みなど、非常に有意義な研修をさせていただくことが出来ました。今後の PTA 活動の参考にしたいと考えています。